

令和元年度 学力向上指導改善プラン

狭間中学校長 大杉 正昭

学校教育目標		人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きる生徒の育成	
推進主体		管理職・主幹教諭(研究推進担当)・各教科代表で研究推進委員会を設置し、学力向上に向けた取り組みを推進する	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>○国語A(主として知識)国語B(主として活用)ともに、おおむね満足できる状況にあるという結果であった。無解答率が低く、最後まで問題に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>●A問題の「書くこと」の領域で全国平均より低い平均正答率であった。</p> <p>●B問題3の二「文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する」設問において課題が見られた。</p> <p>●感想文や説明文を書くことが苦手な生徒も多く、自分の考えを他人に説明するのが苦手な生徒も多い。</p>
		算数・数学	<p>○A・B問題ともに全国平均を上回り、おおむね良好である。基本的な計算技能等は正答率が高く、学力の定着がみられた。</p> <p>●「数と式」領域で、示されている計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。全国正答率より若干下であった。</p> <p>●「図形」領域で、長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることの理解に課題がある。全国正答率より下であった。</p> <p>●「資料の整理」領域で、最頻値についての正答率が全国正答率とほぼ同じであった。資料の中で最も多く出ている値であることを理解する必要がある。</p>
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>・テストへの意識が高く、定期考査前には、家庭学習の時間を確保して勉強に取り組んでいる。</p> <p>・今後は、効率的な家庭学習を行うために、学習計画を立てて実行させるとともに、補習を学校全体の取組として充実させることで低学力の生徒への支援を行う必要がある。</p>	<p>○学校評価アンケートで「授業がわかりやすい」の数値を90%以上に上げる。</p>
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>・安全で安心した学校生活が保障され、生徒の規範意識は高く、授業も集中して取り組んでいる。</p> <p>・生徒は規律や約束を守り、宿題や提出物も守られている。</p> <p>・今後は、「見通しと振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態をより浸透させる必要がある。</p>	<p>○わかる授業・楽しい授業の改善に努める。</p> <p>○発表や話し合いを大切に授業で、自尊感情を高める</p>
慣学・力生向上に習い慣える学習	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<p>・生徒は規律正しい生活を送り、課外活動にも意欲的に取り組んでいる。また、教師との関係も良好で、人の役に立ちたいという意識も持っている。</p> <p>・今後は、「読書習慣の定着」「地域活動への協力などの推進」「自己有用感を感じる機会と場の設定」に努める必要がある。</p>	<p>○学力検査「質問紙調査」における「学校以外で読書に費やす時間数」を昨年度より増加させる。</p> <p>○「いじめはどんな理由があっても許さない」の回答割合を昨年度より高める。</p>
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>・いじめや暴力がなく、落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>・教師は生徒理解に努め適時、適切に指導し、命の大切さや思いやりなど、豊かな心も育っている。</p> <p>・今後は、一層のわかりやすい授業と基礎学力の定着に努める必要がある。</p>	<p>○学校評価アンケートで「基礎学力の定着に向けた取り組みをしている」の数値を90%以上に上げる。</p> <p>○基礎学力の定着を一層図る。</p>
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、協働学習を取り入れた授業づくりを行うこととし、校内研究推進体制を整備している。</p>	<p>○協働学習の手法を取り入れ、学習者同士が対話的に学び合うことで学習内容の定着を図り、相手の意見を良く聴くとともに、自分の意見を伝える技術を高めることができる授業を実現している。</p>
	校内研修の状況	<p>・特別に支援が必要な生徒や精神面で不安を抱える生徒に対する支援方法を研修している。</p> <p>・今後は、具体的な方策として反映させる必要がある。</p>	<p>○発達障害等への理解を深め、生徒理解につなげる。</p> <p>○発達障害など特別に支援が必要な生徒向けの学習支援の在り方等の研修を行う。</p>
家庭・地域等の状況	家庭・地域等の状況	<p>・学校生活に適應できない生徒や対人関係に課題のある生徒の家庭と連絡を密にし、保護者と連携して指導にあたっている。</p> <p>・今後は、地域の教育力を活用した取組を進める必要がある。</p>	<p>○不登校生徒や相談室生徒の割合を昨年度より低くする。</p>
	小・中における教科連携等の状況	<p>・小中が連携して、個々の生徒への実態把握に努め、具体的な対応や生徒指導を行っている。また、児童会と生徒会の交流も「あいさつ運動」等を通して活発化している。</p> <p>・今後は、中学校で必要な基礎学力の定着を、小中連携して取り組む必要がある。</p>	<p>○学期に1回の連絡会と、小学6年生への出前授業を実施する。</p> <p>○個々の児童生徒の学力や課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。</p>
携携関係	携携関係	<p>○入学説明会開催時に、中学校にて児童の体験授業を企画するなど新しい取組をすすめた。</p> <p>○教師間連携に加え、児童会と生徒会との交流を活性化させ、入学して行く小学校6年生児童の不安解消に努めた。</p>	<p>○管理職、各担当教員による小中相互の授業参観の実施により、共通の課題の把握に努めている。</p>

4月		10～11月		2～3月		
学力向上に向けての重点的な目標(指標となる数値等)		成果となる目標	具体的な行動目標	中間評価	年度末評価	
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
	<p>○実際の場面で活用できるよう、班活動や学習発表会など、資料を使って発表し、聞く場の設定を増やす。</p> <p>○文章をしっかりと読み取るために、漢字や文法の知識を増やし、活用する練習を行う。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査における書くことの平均正答率を全国平均+5%以上に上げる。</p>	<p>○様々な文と図表やグラフなどの資料に関連させたりして読む活動を充実する。</p> <p>○さまざまな種類の読み物に触れる機会を持たせるため、朝読を週2日実施し、図書ボランティアさんとの連携を図り、読書活動の充実を図る。</p> <p>○新学習システム教員と連携して、漢字・文法学習の充実を図る。</p> <p>・毎週木曜日の放課後の学習相談を充実させ学力補充を行う。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査において、書くことの領域で全国平均正答率を5%以上、上回った。</p> <p>○記述式問題において無解答があり、書ける・書けないの差が大きくなっていると考えられる。そのため、当初の具体的な手立てを継続しつつ、作文等に取り組み、苦手な生徒を重点的に指導しながら、相互評価・振り返りと教師からの助言を行って、苦手意識を取り除いていく活動を行う。</p>	<p>○書いたり話したりすることの根本にある言語的な知識について、継続した漢字練習や文法学習で定着を図る取り組みができた。</p> <p>○グループ学習等で自分の考えを表現したり、各自の考えをまとめる活動を通して、読みを深め合うことや、理解を促進する話し合いができるようになりつつある。</p> <p>○よりよい、わかりやすい文章を書くことを目標に、「書く」活動をさらに進める。</p>	A
	<p>○A・B問題ともに全国平均を上回り、おおむね良好である。基本的な計算技能等は正答率が高く、学力の定着がみられた。</p> <p>●「数と式」領域で、示されている計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。全国正答率より若干下であった。</p> <p>●「図形」領域で、長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることの理解に課題がある。全国正答率より下であった。</p> <p>●「資料の整理」領域で、最頻値についての正答率が全国正答率とほぼ同じであった。資料の中で最も多く出ている値であることを理解する必要がある。</p>	<p>○全国学力学習状況調査における国語、図形資料の活用項目で、平均正答率を全国平均+5%以上に上げる。</p>	<p>○問題場面を図示したり、条件を書き出したりにして、視視を明確にし、筋道を立てて考える活動の充実を図る。</p> <p>○グループ学習を通し、物事を数学的に捉え、筋道を立てて考えを表現する力の充実を図り、深い学びができる授業を実施する。</p> <p>○意を立ててから測定したり、図示したりするなど、感覚的に捉えた事柄を具体的に示す活動を充実させる。</p> <p>○毎週木曜日の放課後の学習相談</p>	<p>○全国学力・学習状況調査において、「国語」と「図形」の領域で正答率は全国平均を5%以上、上回った。「資料の活用」領域は目標とした5%と同程度であったが、若干満たなかった。また、活用力を問う設問では全国平均を上回るが、正答率が他の設問より低く、学習内容を活用する力が課題がみられた。</p> <p>○授業の中で日常生活の具体的な事象を取り上げ、その解決をはかるという場面を設定し、生徒自らが前向きにその課題に向き合い活用力を養う。</p> <p>○「資料の活用」領域は問題演習の量を増やして基礎基本を定着させ、数学的な用語を使って事象を考察する力をつける。</p>	<p>○授業ではペアやグループでの活動の中で、対話的な活動を通して数学的用语を的確に使うことができるようになってきている。</p> <p>○グループ学習では、問題の解法を説明したり、立体モデルをつくって課題解決をする活動を通して、思考・判断したことを表現し深い学びにつなげることができた。</p> <p>○日常の具体的な事象を課題に設定することで、生徒自らが授業に前向きに取り組めるような単元構成ができた。</p> <p>○学習相談では、基礎学力の定着に向けて授業の復習問題等を行うことにより、理解を深めることができた。</p>	A
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>・テストへの意識が高く、定期考査前には、家庭学習の時間を確保して勉強に取り組んでいる。</p> <p>・今後は、効率的な家庭学習を行うために、学習計画を立てて実行させるとともに、補習を学校全体の取組として充実させることで低学力の生徒への支援を行う必要がある。</p>	<p>○学校評価アンケートで「授業がわかりやすい」の数値を90%以上に上げる。</p> <p>○木曜日の学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。</p>	<p>○定期考査前には学習計画を立てさせ、効率のよい学習方法を身に付けさせる。</p> <p>○木曜日の学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。</p>	<p>○学校評価アンケートから概ね「わかりやすい授業」に取り組んでいることがわかるが、保護者と生徒により捉え方に差がある。</p> <p>○今後は、木曜日の学習相談等の内容の充実と努めるとともに、来年度は新学習を実施し基礎学力の充実を図る。</p>	B
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>・安全で安心した学校生活が保障され、生徒の規範意識は高く、授業も集中して取り組んでいる。</p> <p>・生徒は規律や約束を守り、宿題や提出物も守られている。</p> <p>・今後は、「見通しと振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態をより浸透させる必要がある。</p>	<p>○わかる授業・楽しい授業の改善に努める。</p> <p>○発表や話し合いを大切に授業で、自尊感情を高める</p>	<p>○授業の「ねらい」と「振り返り」が定着し、見通しをもって授業に取り組むことができる。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、グループ学習が効果的な場面では積極的に行っている。</p>	<p>○授業において「ねらい」を明確するとともに「振り返り」を行う授業スタイルが定着し、見通しをもって授業に取り組むことができてきている。</p> <p>○来年度も授業研究テーマを「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり(仮題)」とし、引き続き研究を推進していく。</p>	A
慣学・力生向上に習い慣える学習	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<p>・生徒は規律正しい生活を送り、課外活動にも意欲的に取り組んでいる。また、教師との関係も良好で、人の役に立ちたいという意識も持っている。</p> <p>・今後は、「読書習慣の定着」「地域活動への協力などの推進」「自己有用感を感じる機会と場の設定」に努める必要がある。</p>	<p>○学力検査「質問紙調査」における「学校以外で読書に費やす時間数」を昨年度より増加させる。</p> <p>○「いじめはどんな理由があっても許さない」の回答割合を昨年度より高める。</p>	<p>○読書習慣に係る生徒質問紙の数値が向上した。引き続き、読書習慣を継続する。</p> <p>○「いじめはどんな理由があっても許さない」の回答割合に大きな変化はなかった。道徳や教育相談、学習相談への取り組み内容を一層充実させる。</p>	<p>○引き続き、読書習慣の醸成を図る取り組みを推進していく。特に、「読書通帳」等を有効活用して読書に一層親しめる環境を培っていきたい。</p> <p>○新しい教科道徳に係る評価を丁寧にを行うとともに、教育相談、学習相談、生活アンケートの充実を図り、生徒理解に一層努めることにより、自己有用感の高揚を図っていく。</p>	A
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>・いじめや暴力がなく、落ち着いた学校生活を保障する。</p> <p>・教師は生徒理解に努め適時、適切に指導し、命の大切さや思いやりなど、豊かな心も育っている。</p> <p>・今後は、一層のわかりやすい授業と基礎学力の定着に努める必要がある。</p>	<p>○学校評価アンケートで「基礎学力の定着に向けた取り組みをしている」の数値を90%以上に上げる。</p> <p>○基礎学力の定着を一層図る。</p>	<p>○少人数の指導等で基礎学力の定着を図る。</p> <p>○毎週1回及び夏季休業中に学習相談を実施して、学習困難な生徒の支援を行う。</p>	<p>○少人数による学習の機会を一層増やすとともに、学習相談の充実を図っていく。</p>	B
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、協働学習を取り入れた授業づくりを行うこととし、校内研究推進体制を整備している。</p>	<p>○協働学習の手法を取り入れ、学習者同士が対話的に学び合うことで学習内容の定着を図り、相手の意見を良く聴くとともに、自分の意見を伝える技術を高めることができる授業を実現している。</p>	<p>○講師を招聘し、研修するとともにその成果を公開し、相互の授業見学年2回以上行う。</p>	<p>○夏休みに講師を招き「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修会を行った。</p>	B
	校内研修の状況	<p>・特別に支援が必要な生徒や精神面で不安を抱える生徒に対する支援方法を研修している。</p> <p>・今後は、具体的な方策として反映させる必要がある。</p>	<p>○発達障害等への理解を深め、生徒理解につなげる。</p> <p>○発達障害など特別に支援が必要な生徒向けの学習支援の在り方等の研修を行う。</p>	<p>○通級指導員より研修受けと共に、そのスキルを授業に反映させる。</p>	<p>○通級指導員と連絡を密にとり、支援の体制をとっている。</p>	A
家庭・地域等の状況	家庭・地域等の状況	<p>・学校生活に適應できない生徒や対人関係に課題のある生徒の家庭と連絡を密にし、保護者と連携して指導にあたっている。</p> <p>・今後は、地域の教育力を活用した取組を進める必要がある。</p>	<p>○不登校生徒や相談室生徒の割合を昨年度より低くする。</p>	<p>○OSCやSSW、第三者機関のアドバイスのもと、保護者や地域との連携を密にして、生徒学習環境を保障する。</p>	<p>○OSCやSSWによる不登校生徒への家庭訪問を実施し、保護者や本人の悩みに寄り添える機会を増やしている。</p>	A
	小・中における教科連携等の状況	<p>・小中が連携して、個々の生徒への実態把握に努め、具体的な対応や生徒指導を行っている。また、児童会と生徒会の交流も「あいさつ運動」等を通して活発化している。</p> <p>・今後は、中学校で必要な基礎学力の定着を、小中連携して取り組む必要がある。</p>	<p>○学期に1回の連絡会と、小学6年生への出前授業を実施する。</p> <p>○個々の児童生徒の学力や課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。</p>	<p>○OSCやSSW、第三者機関のアドバイスのもと、保護者や地域との連携を密にして、生徒学習環境を保障する。</p>	<p>○OSCやSSWを有効活用して、不登校生徒等のケアに努めた。来年度は、生徒指導委員会へのSSW参加等により、より一層関係機関と連携した指導体制の構築を図っていく。</p>	A
携携関係	携携関係	<p>○入学説明会開催時に、中学校にて児童の体験授業を企画するなど新しい取組をすすめた。</p> <p>○教師間連携に加え、児童会と生徒会との交流を活性化させ、入学して行く小学校6年生児童の不安解消に努めた。</p>	<p>○管理職、各担当教員による小中相互の授業参観の実施により、共通の課題の把握に努めている。</p>			A